

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870200694		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとぴ庵神戸・石屋川		
所在地	兵庫県神戸市灘区記田町1-3-7		
自己評価作成日	令和元年7月12日	評価結果市町村受理日	令和元年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和元年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとしての特徴である「共同生活」を念頭に、入居者様と職員が共に暮らす空間であることを意識してケアに取り組むことに努めています。認知症の症状は一人お一人、様々でありますので、画一的なルールを設けるのではなく、入居者様のこれまでの生活歴や趣味趣向を把握し、個別ケアを実践していくことを重視しています。入居生活の月日が流れていく中で、入居者様御本人のご状態も当然変化していきますので、ケアの方針については、御家族のご意見も伺いながら、ご安心頂ける対応を心掛けています。グループホームを運営していく中では、お花見や夏祭り、クリスマス会等季節のイベントを実施し、特に夏祭り際には、近隣の保育園の園児さんを招待したり、最近では法人のグループ内から講師を招いて「介護技術講座」を開催したりして、地域貢献にも注力しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

坂のない静かな住宅地に立地し、駅・公園・コンビニ等が近く、日常生活や家族の来訪に便利な環境である。毎月のケアカンファレンスとモニタリング、定期的な再アセスメントを継続し、利用者の現状に即した個別ケアの実践に取り組んでいる。手作りの食事を継続し、また、各種委員会の企画で食事会・お花見会・夏祭り・敬老会・クリスマス会等、利用者が楽しめる機会作りを努めている。訪問診療・訪問看護による医療連携体制を整備し、通院支援にも柔軟に対応し医療面での安心となっている。定期的な研修・委員会活動・会議開催等、職員の資質向上と連携に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「より良い介護」、「感動ある介護」という事業所の基本理念を元に運営理念として具体的な項目を6つ挙げています。それを共有するために各フロアの詰所内に掲示し、職員が常に目にすることができるようにしています。各種会議の場では、職員間で様々な意見交換がなされますが、グループホームの運営において、又入居者様のケアについての最終的な方針の決定において、運営理念に基づいた決定を行っています。	法人共通の基本理念をもとに、事業所の運営理念を策定している。職員の行動指針となるような具体的な6項目で、その中に地域密着型サービスの意義が盛り込まれている。入職時に説明すると共に、スタッフルームに掲示し共有を図っている。各種会議・委員会で、理念に立ち戻って検討するように管理者層が意識付けを行い、また、「自己チェックシート」での振り返りも活用して理念の実践に向けて取り組んでいる	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の出勤時、帰宅時、入居者様の外出時等には日常的に行き交う方々と挨拶を交わすことができます。近隣の喫茶店やコンビニを利用し、入居者様と一緒に訪れることにより、グループホームの存在を認識して頂き、又職員、入居者様が地域の一員として認めて頂けるきっかけになっていると思います。	自治会に加入し、日常的にも、職員・利用者が近隣の方と挨拶や言葉を交わっている。買い物・散歩等で、近隣の公園・コンビニ・喫茶店等に出かけている。事業所の夏祭りに保育園児の来訪があり、小学生の見学・中学生のトライやるウィークも受け入れている。認知症サポーター養成講座の開催、「子ども110番」「まちかど救急ステーション(AED設置)」の登録、地域に向けたセミナーの開催等、地域貢献にも取り組んでいる。	ボランティアの受け入れ、地域行事への参加等、利用者が地域と交流する機会を増やされることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居という結果に至らなくとも、家族が認知症になり困っておられるような方には、見学、相談というかたちで対応させて頂き、そこで認知症の方への理解や支援の方法についてアドバイスを行ったりしております。		

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、年間6回の開催ペースを維持して、御家族代表、地域住民代表、知見を有する者(他ホームの管理者)に参加いただいて、ご意見や助言をいただきながら運営推進会議を実施しております。	利用者・家族代表・地域包括支援センター職員・知見者(他グループホーム管理者)・地域代表(民生委員)を構成メンバーとして、年に6回開催している。会議では、「ゆうとぴ庵神戸石屋川通信」を見ながら、利用者状況・事業所の取り組み・今後の予定・事故ヒヤリハット等を報告している。その後、参加者と意見・情報交換を行い、民生委員の協力でトライやるウィークの受け入れを始める等、会議での意見・情報等がサービスに活かせるよう取り組んでいる。議事録は、玄関に設置し公開している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの連絡には注意し、分からない点等があればその都度確認するようにしています。ホームの運営に関する必要な報告事項は、きっちりと報告を行って、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えるようにしています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況や取り組みを伝え、意見・情報を受け連携している。日頃から市からの連絡事項・情報に留意し、市が開催する集団指導・研修等に参加し、適正な運営に努めている。疑問や課題が生じた場合は適宜相談し、助言や指導を受け連携を図っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を毎年必ず実施して、基本的な知識について職員に周知徹底するようにしています。施錠の意味も含めて、しっかりと理解できるように取り組み、身体拘束を行わない介護力を身に付けることを目指しています。	「身体拘束に関しての指針」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。「危機管理・コンプライアンス委員会」を設置している。年間研修計画を策定し、「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」研修を年2回実施している。玄関・フロア・エレベーターの開錠には操作が必要であるが、職員に施錠の意味についての理解に努め、利用者に外出の意向があれば対応している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を毎年必ず実施して、基本的知識を習得し、入居者様のケアにあたる際に絶対に虐待となるような言動がなされないように注意してしています。また、虐待につながるような「不適切なケア」の防止に力を入れ、毎月「自己チェックシート」を活用して、職員一人一人のケアを自ら振り返るようにしています。	高齢者虐待防止についても、上記と同様に年間研修計画をもとに研修を行っている。「自己チェックシート」を活用して毎月振り返る機会を設け、不適切な言葉かけや対応への意識付けを行っている。話しやすい環境づくりに努め、勤務パターンの整備・福祉用具の導入など介護環境の整備・医師との連携など、職員の疲労やストレスが、ケアに影響を与えないよう取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居中の方で、実際に成年後見制度を利用しておられる事例を参考にしながら、内部研修の項目にその制度を学び取る機会を設けるようにしています。また、制度の利用の必要性を感じるケースにつきましては、御家族、関係者と話し合いを行うようにしています。	権利擁護の制度について一定の基本的な知識が得られるよう、年間研修計画に沿って資料回覧による研修を実施している。成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への定期的な報告や金銭管理書類の整理提供等、法人事務局と協働して制度利用を支援している。制度利用の必要性や家族等からの相談があった場合は、管理者が情報提供し利用のための支援を行う仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には管理者から丁寧な説明を行うように努めています。不明な点、疑問点等がないかよく確認して、手続きをすすめるようにしています。	入居希望があれば、見学・面談を行い、パンフレットや入居案内に沿って、必要事項をできるだけ詳細に説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・各種同意書をもとに再度説明を行い、文書で同意を得ている。重度化対応・退居要件等については特に丁寧に説明し、利用者・家族の不安の軽減に努めている。契約内容改定時は、変更内容を電話・面会時等に説明し、文書で同意を得る等、変更内容に応じて適切に対応している。契約終了時は、退居に向けた支援を行っている。	

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の希望等は介護経過記録に記し、申し送りを行って日々のケアに活かせるように努めており、その集約したものとケアプランに反映することができるようにケアカンファレンス時にも必要に応じて議題に挙げて、職員同士で話し合うようにしています。御家族とのお話については、面会時や電話連絡の際に、御意見を伺うように心掛けています。	主に管理者が家族対応を行い、面会時・電話の際に近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月、写真を掲載した「ゆうとぴ庵神戸・石屋川通信」と手書きの個別の「たより」を送付し、家族が意見・要望等を出しやすいよう工夫している。把握した意見や提案等は介護経過記録に記録し、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。利用者・家族の運営推進会議への参加を通して、外部者に意見等を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種ミーティングに管理者も出席して、職員の意見を聞き取るようにし、その意見を踏まえながら、ホーム長会議の中で法人の代表者と管理者との話し合いが行えるようになっています。直接的に意見交換が行えるよう、代表者との面談、管理者との面談も行うようになっています。	定期的にフロア会議・フロア長会議を、随時に各種委員会を開催し、管理者も参加して、職員の意見・提案の把握に努めている。管理者は職員と話しやすい関係づくりに努め、日常的にも、また、随時にも面談し、個別に意見等を聴く機会を持っている。事業所のイベント・利用者のケア・業務内容等に、職員の意見・提案を反映できるように取り組んでいる。管理者が法人のホーム長会議に参加し、職員の意見・提案を上位者に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者をはじめ、グループホームを経営する本社の取り組みとして、職員の待遇、職場環境をより良くする為、職員にとってより良い職場であるように常に努力を続けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も取り入れながら、法人として資格取得への支援を行う等、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学や、交流会への参加等、そのような機会がある時は、職員に呼び掛けをしています。		

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受け、申し込みをいただいた段階で、ご本人との面談を行うようにしており、その時点でのご状態をしっかりと確認するようにしています。入居前の面談は、必要であれば複数回実施して、不安なこと、困っていること、要望等を聞き取るようにしています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めての相談を受けてから、入居へ至るまでは、御家族と密に連絡を取らせていただき、よく話を聞かせていただくようにしています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居が全てとせず、他のサービスの可能性も考えたうえで、本人、御家族と話し合うようにしています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームが「共同生活」の場であることを意識して、生活環境を作る者として、入居者様と職員とが協力できるように努めています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも、御家族が本人を支える立場として関わりを維持できるように支援し、職員から御家族へのサポートも忘れないようにしています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みのある友人、知人が気持ちよく面会に来ていただけるように、ホームの雰囲気やグループホームとしての仕組みを説明させていただく場合もあります。それにより、訪ねて来られる方々が余計な気を遣うことがないように努めています。	入居時の面談や日々のコミュニケーの中で、馴染みの人や場所について情報の把握に努めている。把握した内容は、介護経過記録に記録して共有に努めている。家族・親戚、また、知人や友人の来訪もあり、居室や共用空間でゆっくり過ごせるよう歓待し、関係継続を支援している。馴染みの場所については、自宅への外出・外泊の事例がある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での入居様同士の関係性については、常に注意して見守りを行っています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「解約」の手続きを行った後でも、連絡を取り合わせていただき、必要に応じて相談や支援を行うようにしています。	/		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント、ケアプラン更新時のアセスメントのタイミングで本人の希望や意向を聞き取ったり、御家族からも聞き取って、職員が把握できるように努めています。	入居時の面談で、また、その後は6ヶ月毎の再アセスメント時に思いや意向の把握に努め、アセスメントシートに記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。日々のコミュニケーションの中で把握した内容は、介護経過記録に記載して共有している。把握が困難な利用者については、表情や反応から推察し、また、家族からの情報や意見を参考にし、本人本位に支援できるように取り組んでいる。	/	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネージャー、施設相談員等の関係者から情報を聞き取るようにし、また御家族からよくお話を聞くようにしています。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々記録している介護経過記録を活用しながら、本人の現状を職員全員がしっかり把握するように努めている。	/		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンスを中心に、本人の状態の確認とそれに合うケアの方針をしっかりと話し合うようにしています。主治医の意見、御家族の意向も反映させるように努め、カンファレンスの内容はすぐに職員に周知しています。また入退院があった場合や、急激な状態の変化があった場合にもケアプランを更新させて、入居者様の今の状態に合ったケアを提供できるように努めています。	入居時の面談・アセスメントシートをもとに初回の介護計画を作成し、その後は、定期的には6ヶ月毎に見直しを行っている。サービスの実施状況は介護経過記録に記録し、毎月のフロア会議で利用者の状況の共有とモニタリングを行っている。計画の見直し時には、モニタリング結果と再アセスメントをもとに、カンファレンスで検討している。利用者・家族の希望、医療関係者の意見は、アセスメントシートに記録できる仕組みがある。入・退院や大きな変化があった場合は、随時計画の見直しを行っている。	職員が介護計画に基づいて実施したサービスを、記録に反映できる仕組み作りが望まれる。計画見直し時のカンファレンスの際は、議事録等に位置づけることが望まれる。	

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録は時系列に沿って、職員がそれぞれ記入しており、ケアの実践と結果、入居者様の具体的な様子や、気づきの点を記入するようにしています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態が変化していく中で、その時々で生じるニーズについて、御家族ともよく話し合っ、柔軟に対応できるように努めています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源と考えられる周辺の店舗、施設等を積極的に活用して、本人が充実した暮らしを送り続けられるように努めています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について確認を行い、希望の医療を受け続けられるように支援しています。また通院して受診してホームに帰られるまでの対応も職員がお手伝いしております。	契約時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診ができるように支援している。神経内科医による定期的な訪問診療、希望者は歯科の往診が受けられる体制がある。皮膚科・整形外科・眼科等、近隣の病院を受診する際は職員が柔軟に対応している。週1回訪問看護があり、健康管理、医療連携している。「健康管理チェックシート」に、毎日のバイタル・訪問看護師記録、病院を受診した際の指示内容・報告内容等受診結果を記録として残し、職員に周知を図っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を活用して、入居者様の体調管理について、看護師と連携を取り、相談しております。		



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、入院時の医師からの説明を御家族と一緒に聞かせてもらうようにしており、治療方針や予想される入院期間等を確認するようにしています。入院中もお見舞いにかかせていただいて本人の状態を把握すると共に病棟関係者と情報共有に努めて、まずは早期退院を目指すようにしています。退院時も、退院の前には病院関係者とのカンファレンスを行うようにして、ホームに戻ってこられた際の受け入れがスムーズになるように努めています。	入院時には介護サマリーを作成し、必要な情報を医療機関に提供している。医師からの説明に同席させてもらい、治療方針や状況の把握に努めている。入院中は主に管理者が面会に行き、利用者の状態を把握するとともに、病院関係者と連携を図りながら情報を共有し、早期退院に向けて支援している。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。退院前のカンファレンスに出席し、退院後の事業所での支援に活かしている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前には必ず重度化した場合の方針について確認するようにしています。入居中の長い年月の中で本人の状態が変化していくことは、自然の流れでもあるので、その都度御家族と今後の方針を確認するためによく話し合うようにしています。	入居前の面談で、事業所として終末期対応を行わない方針であることを説明している。契約時に、重度化対応指針に沿って、事業所で出来る事・出来ない事を再度説明し、同意を得ている。利用者の状況変化に応じて、主治医の意見や家族の意向を確認しながら、可能な限り事業所での生活が継続できるよう支援している。主治医・家族との相談内容や経過については、管理者が経過記録に記録している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の中で緊急時の対応について学ぶようにしています。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での消防訓練を1年に2回実施し、そのうちの1回は夜間想定訓練として、夜勤帯での対応も含めて訓練を実施しています。合わせて災害時の対応についても職員に周知徹底するようにしています。	毎年、2回消防訓練を実施し、昨年度も夜間想定、昼間想定、消防訓練を実施し、可能な利用者は参加している。「自衛消防訓練実施計画書」に通報・避難・消火訓練の実施内容を記録している。訓練終了後に「実施後の振り返り」を作成し、参加できなかった職員にも閲覧で周知を図っている。管理者が担当者となり、水・食料等を備蓄し、非常用持出袋も各フロアに準備している。研修として、毎年「非常災害マニュアル」の閲覧研修を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「共同生活」の中でのケアにおいて、常に周囲の目があることを考慮し、声掛けや対応について、本人の自尊心を傷つけないように注意しています。	年間研修計画に沿って、プライバシーの確保・個人情報保護について、研修内容を回覧での周知を図っている。「自己チェックシート」を活用して毎月振り返る機会を設け、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応への意識付けを行っている。個人記録等の書類は、詰所ロッカーに保管し、写真を掲載している「通信」は運営推進会議後に回収し、家族にのみ配布している。職員に守秘義務について説明し、誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や食べ物、飲み物等、本人の好みで選ぶことができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で食事の時間や、入浴の時間等、大まかな時間割はあるものの、常に柔軟に対応することを意識しています。入居様が自宅で過ごしているような感覚で自由なペースで暮らせる空間を目指しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居様が身に付ける衣服については、できるだけこれまでに着ておられた好みの服装を続けるようにして、また身だしなみやおしゃれにも配慮するように意識しています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際に使用するおしぼりを巻いていただいたり、テーブルを拭いていただいたり、食器の後片付けを手伝っていただいたり、食事が楽しく感じられるよう入居者様にも関わっていただいている。	業者から食材が届き、「予定献立表」に沿って各フロアで調理し、手作りの食事を提供している。季節感が味わえる献立の工夫がある。食事報告書に主食・汁物・おかずの食事摂取量を個別に記録し、改善点があれば「食材要望書」で業者に伝える仕組みがある。おしぼりを用意したり、テーブルを拭く等、利用者が準備に参加できるように支援している。食事委員会が、食事会の中で利用者の希望や季節感を採り入れた行事食やおやつ作りを企画し、利用者も参加して楽しめるイベントとなるよう工夫している。	

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせて、盛り付け量や食事の形態(一口大・きざみ・ペースト)を工夫している。水分摂取量も記録して、摂取量が少なすぎないように注意して、こまめに摂取していただくように対応している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のできるケースと介助が必要なケースに応じて、職員がチェックして、食後の口腔ケアを実施するようになっている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、お一人お一人の排泄パターンを把握できるようにして、そのタイミングに応じて、声掛け、誘導を行っています。	「排泄チェック表」で利用者個々の排泄状況・排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄・排泄の自立に向けて支援している。排泄時間帯・介助方法・パットの種類等をカンファレンスで検討し、現状に即した支援に取り組んでいる。誘導の際の声の大きさやドアの開閉に留意し、利用者の羞恥心への配慮やプライバシー保護に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取を心掛け、便秘を予防し、排便の間隔に注意して、ひどい便秘にならないよう主治医と確認しながら必要に応じて下剤を使用しています。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の準備は毎日行い、入居者様のペースに合わせてながら、1週間に2回以上を基本として入浴して頂いています。	週2回以上を基本とし、利用者が体調や気分に応じて入浴できるよう毎日入浴準備をしている。声かけやタイミングを工夫したり、同性介助の希望があれば対応し、身体状況に応じてシャワー浴で対応する等、チェック表で確認しながら個別の支援を行っている。入浴剤の使用、自身のペースでゆっくり入浴する等、入浴が楽しめる支援に努めている。	

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も必要に応じて、居室で休んで頂き、お疲れがでないように対応しています。ベット周りの環境も入居者様に依じて工夫し、安心して睡眠を取れるようにしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬については、全て鍵の掛かる棚に保管しています。また、お一人お一人の薬の内容については一覧表をファイルに綴じ、職員がすぐに確認できるように管理しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロア内の掃除や、食事の準備、テーブルを拭いたり洗濯物を畳んだりする等、生活の場面で、「できること」を入居者様に手伝っていただき、役割とやりがいを感じていただけるように工夫しています。また、嗜好品について、入居者様の好みを把握して、事前に購入、あるいは一緒に買い物に行く等して楽しんでいただいています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	アップダウンの少ない平坦な土地、公園に近い等の立地条件を活かして、入居者様の希望に応じて、または職員から声掛けを行って、日常的に散歩に出掛けるように努めています。ホームの車を利用して、徒歩では難しい場所にも出掛けられるように努めています。	天候や体調を考慮しながら、利用者の希望に応じて、近隣の公園への散歩や喫茶店・コンビニに外出できるよう支援している。春には近隣の川沿いへお花見に出かけ、季節を感じながら楽しめる機会を設けている。車いすの利用者も気軽に外出できるよう、社用車を利用して出かけられるよう努めている。	今後も、利用者の希望に沿って、グループや個別に戸外に出かける機会づくりにさらに取り組まれることが望まれる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、事前に御家族としっかりと相談して、確認するようして、希望のある入居者様に対して、個別に対応するようしています。		

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に柔軟に対応して、電話ができたり、手紙を出すことができるように対応しています。	/	
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内はシンプルで分かりやす造りになっており、空調にも気を付けています。キッチンは見通しのよい場所にあり、調理する様子を眺めることができ、生活感を感じて頂けていると思います。季節の花や飾り付けを飾って、春夏秋冬の季節を感じて頂けるようにしています。	各フロアの共用空間は、広いスペースで整理整頓され、キッチン・詰所から見通しがよい造りになっている。各フロアの利用者の身体状況や動線に配慮してテーブル・椅子・ソファの配置を工夫し、人や車いすが通りやすく安全に、また、穏やかに過ごせる環境づくりに努めている。キッチンの調理の様子を見たり、音や匂いから生活感を感じられるように配慮している。行事委員が、夏祭り・敬老会・クリスマス会等を企画し、季節感が感じられるように取り組んでいる。	各フロアで、環境面からも利用者が日常的に季節感を感じられるような工夫が望まれる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数のテーブルを用意して、相性の合う入居者様同士でテーブルを囲むことができるように配慮しています。またお一人で過ごすことを好まれる方にも対応できるように考えています。また入居者様の状態に変化があった場合も、その現在の状況にあった居場所で過ごして頂けるように配慮しています。	/	
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居者様毎に使いやすさや安全面を考えて家具類のレイアウトを考えています。本人が使い慣れたものがあれば、積極的に居室内に持ち込んで頂くようにして、「自分の部屋」である認識を持てるようにしています。家族の写真や部屋の飾りについても自由に飾って頂くようにしています。	居室には、ベッド・木製たんす・テーブル・椅子を設置している。利用者の身体状況や動線に合わせて家具の配置を工夫し、個別に手すり用ソファや危険防止マットを設置し、安全の確保に努めている。家族の協力を得て、鏡台・本箱・時計・テレビ等使い慣れたものや、家族の写真・ぬいぐるみ・花等好みのものを置き、居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。	

グループホームゆうとぴ庵神戸・石屋川

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	談話室内のテーブルやソファ等は、自力歩行可能な入居者様、車椅子を自走して移動される入居者様、また車椅子で過ごされることを基本とする入居者様、それぞれの身体の特徴に応じて安全面と過ごしやすさを考慮して配置しています。		